

美郷町カヌー振興とバリ島マス村との友好関係について

美郷町では、1982年（昭和57年）の「くにびき国体」において、カヌー競技のスプリントを旧邑智町で、ワイルドウォーターを旧大和村で開催し、この大会をきっかけにカヌー競技が盛んになり、現在におけるカヌー文化の定着に繋がりました。

県立邑智高等学校（現在の島根中央高等学校）と美郷町立邑智中学校に、全国でも数少ないカヌー部が創設され、全国大会で活躍する多くの優秀な選手を輩出してきました。また、OBや経験者らによりカヌークラブを発足させ、ジュニアの育成に励んでいます。

カヌーをテーマにした町づくりにも取り組み、1991年（平成3年）には町内にカヌー体験ができるアウトドア施設「カヌーの里おおち」と「カヌー博物館」を建設しました。オープニングイベントでインドネシアのカヌー「ジュクン」の制作実演を行ったことが縁で、バリ島マス村との交流が始まり、1993年（平成5年）に友好協定を結んでから30年を迎えます。

また、2016年（平成28年）より「島根県スポーツレクリエーション祭・しまねカヌーフェスタ」が、カヌーの里おおちをメイン会場に開催されるようになりました。現在は町民と島根県が一体となってカヌー文化を盛り上げています。